

校長室より

「天空高き」



第129号



令和2年1月8日

1年の計は元旦にあり

令和2年がスタートして1週間余り経過しました。

1年の計は元旦にあり、と言われていますが、皆さんはどんな目標をたてましたか。

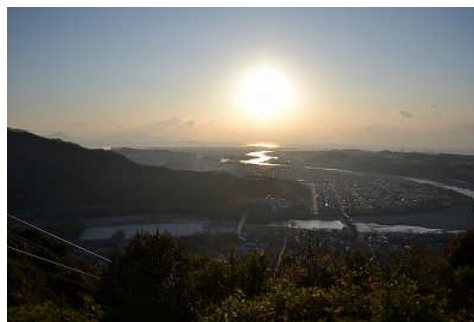
私はいつも目標を立て、紙に書きます。

大切なことは、毎日その目標に向かってどれだけ努力したかということです。当たり前のことですが、努力をしないで目標を達成できるという

ことはありません。そして、一生懸命に努力してもすぐに結果が出ることもありません。場合によっては、目標から遠ざかっているのでは、ということもあるでしょう。しかし、その時でも決して目標を見失わないことです。自信を喪失しても、心が折れそうになっても、諦めないことです。思い続けていれば必ず、その思いは叶います。大事なことは、日々焦らず小さな努力を続けることです。

受験性の皆さんはセンター試験に向けてラストスパートの最中でしょう。毎日の生活のリズムを大切に、平常心で受験に臨み普段の力を発揮して下さい。

今年一年よろしくお祈りします。



鈍刀を磨く 坂村真民

鈍刀をいくら磨いても

無駄なことだというのが

何もそんなことばに

耳を貸す必要はない

せつせと磨くのだ

刀は光らないかもしれないが

磨く本人が変わってくる

つまり刀がすまぬと言いながら

磨く本人を

光るものにしてくれるのだ

そこが甚深微妙の世界だ

だからせつせと磨くのだ

1月の月間目標

姿勢を正す

令和元年度
チャレンジ目標

- 1 挨拶 先に明るく元気に
- 2 先を見据えた行動 5分前行動
・登下校のマナーに心掛ける
- 3 整理整頓
- 4 1%を誰かのために

「姿勢を正す」この言葉は、「背筋を伸ばす」という意味のほかに、「物事への取り組み方を改める」、「自分自身の在り方を見直す」、「気持ちを入れ替える」という意味もあります。

この言葉には、身体的な意味と精神的な意味の両方が含まれています。背筋を伸ばすだけでなく、心の在り方が大事で、心の在り方も含めての「姿勢を正す」です。

姿勢を正すときのポイントは、頭でなくお腹に意識を置くことです。

平常心を失うことを「気持ちが上ずる」、「頭に血が上る」と言うのに対して、平常心を保つことを「落ち着く」、「腹が据わる」と言います。つまり、お腹に意識があるのが正しい姿勢です。お腹（正しくは”丹田”）に意識を置きながら背骨をピンと伸ばして立つことです。すると自ずと、自分自身へも意識が向き

様々なことが「正せる」でしょう。

今年の漢字は…… 2019は「令」

昨年、2019年の世相を表す漢字に「令」が選ばれました。

「令」が選ばれた理由として、新しい元号の「令和」に明るい時代を願う国民の思いが集約されたとしています。さらに法「令」改正による消費増税や芸能界で起きた闇営業、薬物使用などの問題で法「令」順守が重視されたこと、自然災害で警報や避難勧告の発「令」が相次いだことも挙げています。

「令」には、「素晴らしい」、「良い」、「立派な」、「敬う」、「命ずる」等の意味があるそうです。英語に訳すと、「wonderful」、「good」、「excellent」、「respect」。命令となると、「order」になります。

漢字1文字ですが、その時の状況次第や使い方、意味合いが随分変わります。

2020年、皆さんはどんな年にしたいですか。漢字1文字で表してください。私は「変」にしました。その理由は皆さんの想像にお任せします



コミュニケーションの第一歩、自分の言葉で話したり書いたりしよう

英語民間試験と国語・数学の記述式が延期—受験生ファーストに

2021年度から（現高2）導入される大学入学共通テストの目玉だったはずの英語民間試験と国語・数学の記述式が延期になりました。しかし、大学入試改革の方向性として、読解力や思考力の重視は変わらないと思いますし、読解力などを問うために、現行のセンター試験よりもその難易度は上昇する可能性が高いと思います。また、推薦・AO入試においても、読解力や思考力重視の方向性に変わりないと思います。

文部科学省が大学入試改革の方向性として、読解力や思考力の重視を問うことには誰も異論はないと思いますが、そのためにはもっと慎重、かつ、丁寧な議論のもとに進められるべきでした。拙速を重ねて迷走した結果、一番困るのは受験をする皆さんですから。せめて今後の収拾策はまず受験生を第一に考えるべきだと思います。

デジタル時代を生きる—スマホ社会を生きる—

来年度から、小学校でのプログラミング教育が必修化されます。

社会は今、誰もがデジタル機器に接する時代になりました。とりわけ2007年のiPhone発売以来のスマートフォンの爆発的普及によって、電話やメールといったコミュニケーション機能のみならず、ありとあらゆるサービスをスマホ上で完結させることが可能になりつつあります。



ある雑誌に、スマホ時代に関して以下のような文章がありました。

・・・検索機能を使えば辞書いらず、位置情報を使えば地図いらず、写真機能を使えばカメラいらず、お買い物の決済は〇〇ペイ、タクシー配車はアプリで、家や車の鍵もスマートキー・・・と、人々に携帯された小さな端末がもたらす便利さは、人々を虜にしているといっても過言ではありません。

この流れはますます加速化し、産業構造に破壊的なまでの変化を強（し）いています。従来のサービスや商品が、同じ手法では売れなくなりつつあります。これまで安泰だと思われた大企業も含め、すべての会社がこのたった数年の変化の中で死活的な岐路に立たされています。

しかし一方で、消費者ないしはユーザーの側から見える景色は随分と変わりました。より一人ひとりの目線がサービスや商品開発で重視されるようになってきています。スマホ時代の特徴はユーザーと社会との双方向性であり、誰もが情報を持ち流通させることができます。高校生であっても便利なアプリを作って世の中に出すこともできますし、「ユーチューバー」やSNSの「インフルエンサー」のように自らの活動を外部の世界に発表することもできます。

今のこうした変化は、まるでアメーバのように、あらゆる領域に触手が伸び、その勢いはとどまることを知らず、しかも変化の上に変化が重なり、加速度的に進展して

います。また、世界中がこの変化を好機と捉えて激しい競争をはじめています。まさに、世界は変化の真ただ中にあります。

このように、スマホ時代の到来で私たちの生活や社会・世界は激変しています。しかし、有益性や便利さの一方で失われた物もたくさんあります。スマホの利点だけを見ていては、本当の意味での豊かさは受けられません。携帯電話やスマホが私たちの生活をよりスマートにしてくれる代わりに失った物にまでしっかりと目を向け、有益に使用しながらも失った物をどのように補うのかを心がけることが大切です。・・・

サン＝テグジュペリ(仏)の著書『星の王子さま』の中で、キツネが王子さまに、「・・・とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」と言っています。「たいせつなこと(もの)」は見にみえない。心で見ないと。日々の生活の中であなたがたいせつに感じたことを心に刻み込むことは、あなたの人生をより豊かなものにしてくれます。

ちょっと一息一同音異義語一

ある雑誌にこんな文章がありました。

・・・自宅に向かう車中のラジオから、「幸せは築くものではなく『気づく』こと」というフレーズが耳に入ってきました。なるほどうまくいこと言うな、と膝を打ちました。「幸せは、降ってくる華々しい出来事ではなく、自分で見つけ出すもの」「ちょっとした心遣いのようなささいなものに心を動かし幸せを感じる。すると、それは、他者を幸せにしようとする、ささいな一歩を踏み出す勇気につながり、もしかしたら、それが他者を幸せにするだけでなく、自分の人生を変えることにもつながる」なんていう話を私はよく生徒にしてきたので、ラジオからの言葉にビビッときたのですね。・・・

築く
気づく

幸せは自分で見つけ出すもの、ですね。

24節気

小寒(しょうかん) 1月5日頃、冬至 と大寒の中間。

寒さが加わる頃という意味で、いわゆる「寒の入り」のこと。小寒から節分までの30日間を「寒の内」といい、寒風と降雪の時節で、寒さが厳しくなる頃。これから冬本番を迎えます。寒稽古や寒中水泳が行われるのは、この「寒」の時季です。※立春が「寒の明け」になります。

大寒(だいかん) 1月20日頃、冬の季節の最後の節気。

寒さがさらに厳しくなり、1年中で最も寒い時季です。寒稽古など、耐寒のためのいろいろな行事が行われます。また「寒仕込み」といって、寒気を利用した食べ物(凍り豆腐、寒天、酒、味噌など)を仕込むのに最もよい時期とされています。 日本行事・暦